

故大勢に渡合追りまゝの戦ひ方二二丁程より止りし故

大勢をこれに後を切田前後より責め死さしも別ある様摩字も
信田様摩字も此の手の上を討死す
大勢が此勢が石叶しと討死とすなりと相模守是を言ふも様

摩を討て何の面目もせ世に面をあらへやいとも死した討死せ

人馬の多しを引返し又追ひ八方切迫死士卒も主

を討たせしと追ひしに八十六文字に打破當るを言ふ切迫を

に何より追て多きも追ひに敵に死に追ひたりも死を合は

勢もあり共自害も及まん様摩守も首をいへり

はしと要を先き山形に引返しなるも死に山江城守に

畑谷も責めし江口五郎同小吉久作を介首殺言ふ十

余京様公の事様は傷くも斜ありも収むる事以上を
名に上山長谷堂押寄兩城をも責めするに成りたり

畑谷城より江口五郎光晴 知行八千石

慶長五年庚子九月十二日 討死行年五十五歳

法名長松寺殿江月秋光大居士と号す

同嫡子江口惣左衛門 二十歳落行任所不詳

同惣男江口少吉 同日討死行年二十三歳

同甥 松田久作 同日討死行年四十八歳